□口繪原色版『習作』は多少青味を失ひ、 は藤島氏が本年一月横濱にて寫生せられ しもの、大きさは八ツ切より稍小なるも のに候。『しけ』は猪苗代湖畔戸ノロの宿 屋の二階より寫せし九ツ切のスケッチに 上て、先の剛き油繪筆にて書きしもの、 産の色が一様になりしは印刷の失敗に有 之候

□滋賀縣膳所町に於ける講習會の記事は
□滋賀縣膳所町に於ける講習會の記事は
○大號に詳しく發表可致候
・大號に詳しく發表可致候

□東京も全市四分の一は水中に沒し、非常の慘害に之有候ひしが、幸に本會並びに日本水彩畵會研究所共些の損害も無之に日本水彩畵會研究所共生の損害も無之

難いかばかりかと御同情中上候

◎日本アルプス 小島烏水著 京橋區中橋廣小路 前川文榮閣發行

版、茨城、 氏筆の石南花の模様を見る。近來書籍装 く見終りて表紙の裏に及んで、再び織 の筆になれる惡澤山及び 針葉 樹の て何れも得易からざるもの、別に大下氏 多きに及び、コロタイプ又は寫眞版とし **扉紙に眼を奪はるべし。寫眞は十二版** 丸山氏筆の駒草、萬年雪、偃松を工風せし よき圖案を見るべく、更に一枚を繰れば る君かげ草及アラ、ギを配せし色の心地 る圖案あり。表紙を開けば、鈴木氏の筆な 楊羽及び淺黄斑の蝶をあしらひし瀟洒な 下には織田氏の筆になれる裏白金梅に黄 先づ箱より出せば、白木炭紙の厚表紙に 處なり、 小島氏の山岳に關する興味ある文字は今 日本アルプスの金文字燦として輝やき、 こくに紹介する迄もなく世人の普く知る 依て此書の體裁を記し見んに、 小杉兩氏のスケッチあり。漸 原色

町の上に注意を拂ふ事多くなりゆきしも、其大部分は、徒らに金銀を塗採し俗も、其大部分は、徒らに金銀を塗採し俗目の喜びを購ふに過ぎす、常に遺憾に思ひしが、今此書を手にして、其意匠の高潔なること恰も高山の雪の如きを見て充深なるに驚きたり。敢て山岳といはず、自然を愛し自然に趣味を有する諸士は、たぐ其外形を一覧せしのみにても、本書を得て書架を飾らんとするの念を禁じ得ざるべし。

◎東京十二景のうち『よし町』 石井柏亭 君の筆になれる一枚刷の錦繪にして、江 戸式の筆法にて現時の風俗風景を寫せし もの、素描の修養深き氏のことなれば、 形態よく整ひ、色彩またオチツキありて 形態よく整ひ、色彩またオチツキありて

濱市本町四丁目高野鷹藏方日本山岳會)◎山岳 第五年二號 (一部三十五錢、橫

32